

基地対策に関する要望書

日頃より、木更津市の基地対策に、ご理解賜り、感謝申し上げます。

本市は、在日米軍が施設及び区域を管理し、主として陸上自衛隊第1ヘリコプター団が共同使用する飛行場機能を持った陸上自衛隊木更津駐屯地をはじめ、海上自衛隊航空補給処や航空自衛隊木更津分屯基地も所在し、基地と共存するまちであります。

多くの市民は、国の防衛政策や沖縄県の基地負担軽減への取組に一定の理解を示しておりますが、近年、陸上自衛隊の飛行運用も増えてきており、平日の夜や、土曜日、日曜日にも頻繁に訓練が行なわれており、木更津飛行場における米軍機の着陸管制回数も増えている状況であります。

また、米海兵隊MV-22オスプレイの定期機体整備については、地元自治体として協力していく考えではありますが、整備拠点となっていることについて、米軍機、自衛隊機の飛行運用の実態も踏まえれば、市民に理解を得ていくうえでは、基地周辺の環境整備等の地域振興策を推進していく必要が生じております。

については、本市における基地周辺地域の実情をご理解いただき、下記事項の早期実現について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 防音対策の充実強化について

- (1) 助成対象となっている住宅の防音工事が早期に完了するよう必要な予算を確保すること。
- (2) 第一種区域指定の告示以降の新築住宅の全てにおいて、防音工事の助成対象とすること。また、空気調和機の機能復旧工事においても、全額補助とすること。
- (3) 第一種区域は、道路等を境界として区域が決められたことから、同じ地区で

も、防音工事の助成対象と助成対象外区域が存在しており、地域住民は不公平感を抱いているので、指定区域を地区単位とするよう区域を見直し、拡大を図ること。

2 基地周辺地域の施設整備等について

江川総合運動場拡張整備事業や消防本部庁舎建設事業など民生安定施設整備事業等の推進に、ご協力をいただいているところであるが、今後も、在日米軍と陸上自衛隊が共同使用する基地の重要性と、基地を抱える本市の状況を十分考慮し、上記事業をはじめ、基地周辺地域の振興に繋がる事業の推進に最大限の配慮をされること。

3 特定防衛施設周辺整備調整交付金について

近年、米軍機の着陸管制回数が大幅に増加しており、陸上自衛隊のヘリコプターによる訓練も頻繁に行なわれている。

また、本年2月から米海兵隊MV-22オスプレイの定期機体整備が開始されたことにより、地域住民の負担も大きくなってきているので、市では、民生安定事業を推進するための財源確保が課題となっている。

このような米軍の飛行実態や基地の運用実態、本市の対応等にご理解いただき、交付金の増額を行なうこと。

4 基地運用の影響に伴う基地周辺住民への対応について

基地周辺住民には、これまでの米軍機や自衛隊機の飛行運用の実態に伴う負担に加え、米海兵隊MV-22オスプレイの整備拠点となったことによる新たな負担が生じているが、基地周辺住民から市や貴省に対する不安や不満の大きな声が上がっていないのは、国の防衛政策や沖縄県の基地負担軽減への取組に一定の理

解を示していることによるものであり、基地周辺住民の生活には少なからず影響を与えている。

このような状況を踏まえ、貴省から地元自治会へ地域コミュニティを維持するための支援金を直接交付するなど、新たな交付金制度を創設すること。

5 オスプレイの定期機体整備時の試験飛行等について

本市の重要な観光資源の一つに潮干狩りがあり、春から夏にかけて多くの客で賑わっている。

潮干狩り場は、米海兵隊MV-22オスプレイの場周経路下にあることから、潮干狩り客が不安をいだくことがないよう時間帯等を考慮するなど、試験飛行等における地域住民や観光客等への配慮を行なうよう米軍に申し入れをすること。

6 米海兵隊MV-22オスプレイに関する迅速な情報提供について

オスプレイが木更津駐屯地へ飛来する場合や定期機体整備後の試験飛行に関する情報をはじめ、米海兵隊MV-22オスプレイに関する情報については、迅速かつ詳細な情報提供を行なうとともに、周辺住民の生活に支障をきたすことがないよう、徹底した安全対策を講じることを貴省の責任において行なうこと。

平成29年8月29日

防 衛 大 臣 小野寺 五典 様

北関東防衛局長 吉田 廣太郎 様

木更津市長 渡辺 芳邦

